



環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第2号 平成22年1月

発行 / 環境公共推進会議事務局

〒030-8570 青森市長島 1-1-1

青森県農林水産部農村整備課内

TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

最近の話題

～「環境公共」プロフェッショナルの登録～

県では、「環境公共」を進める上で要となる地区環境公共推進協議会の活動に対して、自然環境などの各分野の支援・助言役として参画していただく地域の専門家62名を、「環境公共プロフェッショナル」として登録しました。

「環境公共プロフェッショナル」は、農林漁業者や地域住民、関係団体、NPOなどで構成される協議会が、生き物調査や整備構想の話し合いなどの活動を行う際に、専門的なアドバイスを行います。

管内毎の登録者とその専門分野などについては、「環境公共」のホームページ（裏面参照）を御覧ください。

特集 ～青森県における「環境公共」の取組事例～

本号から、県内における「環境公共」の取組を紹介していくことにしています。今回は、ため池整備と川に設置される魚道整備における事例です。

1. ため池整備を契機に地域住民がホタルの保全に取り組む事例（弘前市後山地区）

後山地区は、弘前市南部の米とりんごを主体とした農業地域にあるため池で、周辺には自然観察活動の場である「こどもの森」やNPOが管理する「だんぶり池」があります。

[だんぶりとは「とんぼ」のことです。]

ため池の水は、農業用水のほか、冬期間の消流雪用水として使われており、農業者だけでなく地域住民もその恩恵を受けてきましたが、取水施設等の老朽化が深刻となっていました。

そこで、この改修に当たって、農業者は、消流雪用水を利用する町内会や農地・水・環境保全向上対策の活動組織、子供会、公民館、NPOなどに呼びかけ「後山地区環境公共推進協議会」を設立しました。



ため池全景



生き物調査

この協議会では、ため池の歴史についての勉強会やため池周辺の生き物調査、ワークショップを行い、地域の課題やその解決策について話し合いました。その成果は県が作成した「環境公共推進計画」に反映されており、近年、生息数が減少している「ヘイケボタル」が棲める環境を取り戻すため、休耕田を活用したビオトープ池の整備をすることなどに取り組んでいます。

[ビオトープとは野生生物の生息する空間のことです。]

今年度からの改修工事において、協議会は、事前にため池周辺でヘイケボタルとゲンジボタルが生息していることを確認し、今後、モニタリング調査への参加や完成後の維持管理などを積極的に行っていくこととしました。



こうした取組により後山地区では、「自らできることは自ら行っていくこと」を通じた「地域力の再生」が図られつつあります。

2. 魚道の整備を契機に農・林・水が連携する事例（今別町安兵衛地区）

今別町の安兵衛川流域では、これまで、農業では頭首工の整備、林業では伐採や植林、水産業では漁業活動などが、それぞれが独立した形で行なわれてきました。

〔頭首工とは、川から農業用水を取るための施設のことです。〕

このため、安兵衛川にある3つの頭首工では、上下流の大きな段差が、魚類の上を妨げることなどが課題となっていました。



整備後の第3安兵衛頭首工(魚道は左～真中)



魚道設置後の魚類調査

この改善策として、魚類が川を行き来できるようにするための魚道を頭首工に設置することとし、農業・林業・水産業に携わる人たちに今別川の環境保全活動を行っている町おこしグループも加わって「安兵衛地区環境公共推進協議会」を設立しました。

昨年度に設置した第3安兵衛頭首工の魚道で魚類調査を実施したところ、内水面漁協が放流したアユやイワナが見られ、

魚道は正常に機能を発揮していました。

今後、協議会は、町おこしグループのノウハウを活用して川に捨石をして流れを変化させたり、水源林にヒバやブナを植林するなど、より一層農・林・水が連携して、魚類が棲める環境の保全に取り組むこととしています。



川への捨石

環境の保全・再生の事例紹介

- 平内地区排水対策特別事業 - (平内町)

魚類が自由に移動できる水田の排水路の事例を紹介します。

この排水路は、勾配が急であり、魚類がスムーズに移動できるよう、右上の写真のように階段式の魚道を設置しています。

また、水路底に適度な土砂が溜り、魚類の休息場所(ワンド)や右下の写真のような魚巣ブロック、フトンカゴなどを設置したことにより、ヤマメやドジョウ、カジカなどが確認されており、魚類が棲める環境の保全が図られています。

